

平成29年度 事務事業評価（内部評価）シート （平成28年度実施事業）

基本データ	事務事業名		担当部署									
	農業委員会運営事務		部				課長	青木芳勝				
			課	農業委員会事務局			担当	増田英男				
			係				電話	内線2286				
	第五次総合基本計画における位置付け		実施根拠<法令、要綱等>									
	政策項目	06 躍動する あさしま（産業の活性化）					農地法及び農業委員会等に関する法他					
	大項目	01 活力を育む（産業の振興）					法令による事業実施義務					
中項目	03 農業											
個別計画（年度）							<input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 市上乗せあり					
予算科目コード	款	06	項	01	目	01	細目	001	細々目	01	<input checked="" type="checkbox"/> 任意 <input checked="" type="checkbox"/> 都補助等あり	
事務事業概要	目的											
	<対象は誰、何か>						<対象をどの程度の状態にすることを意図しているか>					
	農業委員・農家						農業委員会活動を通して、農業経営の安定化、担い手の育成を行っていく。					
	実施内容											
	農業委員会活動（農地法に基づく農地の権利移動の許可をはじめとする法令業務。農地等の利用の最適化を図るための各般の取り組み）の推進。①毎月1回の総会開催②農地・農政部会の開催③農地法に基づく許可事務及び届出に伴う現地確認調査④視察研修会等及び意見提出、要請活動に係る庶務事務						実績・成果 ①市長への意見提出を行う事で、生産緑地の追加指定が継続的に実施され、約890㎡の農地が生産緑地に指定された。 ②農地法に基づく届出事務処理（62件）農業委員活動（531件）各種証明事務（109件）					
	コスト											
			(単位)	27決算	28当初予算	28決算	29当初予算	備考<特財名称等>				
	直接事業費		千円	9,100	9,196	8,921	9,600	都支出金				
	財源内訳	国庫支出金	千円					・農業経営基盤強化措置事務取扱交付金				
		都支出金	千円	246	31	244	39	その他特定財源				
地方債		千円					・農業者年金業務委託手数料					
その他特定財源		千円	5									
一般職員人件費		千円	8,849	9,165	8,677	9,561						
人工数		人	0.60	0.60	0.60	0.60						
再任用職員人件費		千円										
人工数		人										
総事業費		千円	13,942	14,176	13,709	14,592						
事務事業評価	個別評価 ※ 別紙「事務事業評価基準」による											
	①優先度（どの程度優先されるべきか）				3		②妥当性（実施方法は妥当であるか）				3	
	判断理由	農地関係法令に係る事務処理等を円滑に遂行するために必要である。また、農産物の供給はもとより緑の確保、災害時の空間確保等の観点から農業委員会が担う農地の保全や有効利用の推進といった役割が大きいことから、優先度は非常に高いと考える。					判断理由	農家を代表し国、都、市に対し、生産緑地の追加指定等、建議及び要望を行い、農地の保全に努めた。また、優良農地の確保や担い手への支援など、農業関係、農政関係のエキスパートとして委員会の必要性は妥当である。				
	③達成度（成果はどの程度あるか）				4		④効率性（効率的に実施できたか）				3	
	判断理由	近年、農地や農家が相続等で減少してきている状況の中、生産緑地の追加指定により、農地の確保、保全が出来ている。また、地域農業者の相談や要望を受け、農業の安定的な経営に尽力している。					判断理由	現在の委員で担当地区を決め、農地の適正管理を行っている。また、研修会等に積極的に参加して地域農業の推進に努めている。				
課題と今後の方向性	第五次総合基本計画前半期の評価と今後の課題											
	第五次総合基本計画には掲載していないが、農家を代表し、市や関係機関に意見提出を行ったりなど農業行政を遂行していく事ができた。											
	農地や農家の減少に歯止めを掛け、市内農業を守っていくためにも、活動記録カードやPRを行い農業委員会活動を社会的にも明確化させていく必要がある。											
今後の方向性		E		A 成果拡大に向けて実施方法を見直し B コスト改善に向けて実施方法を見直し C 抜本的な見直し D 縮小・廃止 E 現状を維持		平成30年度予算編成における具体的な取組						
現状維持での業務遂行が望ましいと考える。												